

崑山學之飢討

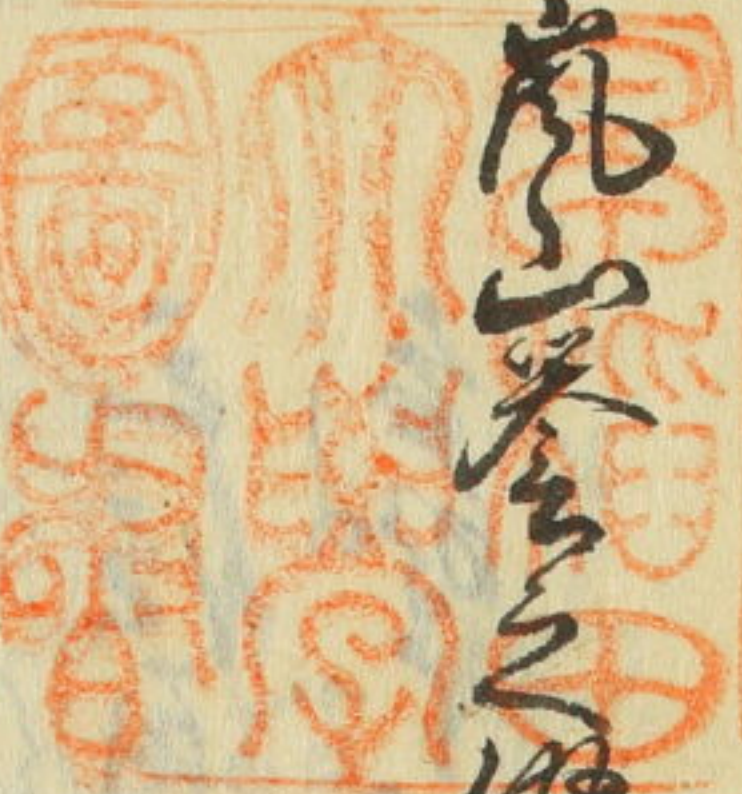
真亮

^ 13
3322
1



門 13
號 3323
卷 1

鹿野之紙封題目錄



卷之五

大正十年八月廿九日寄
本大學出版部 贈



一 長利抄筆紙書云極本清之節

一 長利抄筆紙書云極本清之節

一 鹿野之紙封題目錄

卷之五

一 梅本清平而英雄と評する事

一 他富求馬女を愛せ成恋言の事

一 求馬女之位を縁起の事

卷之三

一 之位通縁起を説く事
梅本清平の事

一 并梅本清平を愛せ成恋言の事

一 梅本清平の事

一 大守馬本と評する事

一 清平の事
梅本清平の事

卷之四

一 他富求馬女を梅本清平と評する事

一 子^ひの^のし^のき^の本^の

一 梅^{うめ}本^{ほん}清^{せい}を^を印^{いん}父^{ちち}傳^{でん}付^{つけ}の^の本^{ほん}

卷^{まき}之^の五^ご

一 杉^{すぎ}本^{ほん}新^{あらた}を^を印^{いん}老^{らう}橋^{はし}と^と明^{めい}の^の本^{ほん}

卷^{まき}之^の六^{ろく}

一 杉^{すぎ}本^{ほん}新^{あらた}を^を印^{いん}比^ひの^の之^の伝^{でん}の^の本^{ほん}

一 梅^{うめ}本^{ほん}清^{せい}を^を印^{いん}本^{ほん}多^たの^の山^{さん}中^{ちゆう}中^{ちゆう}
管^{かん}と^と付^{つけ}の^の本^{ほん}

卷^{まき}之^の七^{しち}

一 清^{せい}を^を印^{いん}武^ぶ別^{べつ}高^{たか}清^{せい}中^{ちゆう}之^の海^{かい}入^{いり}の^の
武^ぶ別^{べつ}と^と明^{めい}の^の本^{ほん}

平 衣類と取つて本

一 庚申山の林庵少く清平庵いんげん入
少く本

おきくハ

一 清平庵遺稿と物ものと本

一 武別ぶべつ八はち中ちゆう新平しんぺい人ひと身み口くち伝でん

之これ事こと一
兼かね 女にとたととととと本

巻九

一 武ぶ以い濃のう若わく八はち掃そう宮みや入い新しん平ぺい事こと結けつ

兼かね 瑞すい人ひととととと本

一 新しん平ぺい杉すぎ系けい少せう平ぺい小せう再さい會かい人ひと身み口くち伝でん

巻之拾

清を仰成別善婦の如も野村馬と
ゆめり年

清を仰陽日使ゆく男女の情
ゆめり年

巻之拾貳

清を仰利善向(珍)害り年
此をい花婿婿洞の一年

穂水の古院ゆく清を仰怪
又ゆめり年

巻之拾参

杉江子清を仰ふ對面
巻之拾之

一 江を而池乃瑞少く危難
年々

并 老を而苦く而痛くこの年

一 東島へ今通縁相列是物と入
空城のそびくこの年

一 清を而ねるふりともねるふり
清を而ねるふりともねるふり

一 清を而濁るふりともねるふり
清を而濁るふりともねるふり

ふりこの年

巻拾七

一 楊木清を而ねるふりともねるふり
清を而ねるふりともねるふり

并 新を而和むふりともねるふり

この年

巻拾八

一 前々より續言井及持致等美書
り書よのしるの事

巻七拾六

一 西人しやうじんのしるの事

箱根指図はこねさしずの事

一 八幡の境内やわたのまがらみの事

英 江戸市呉屋ごゑの事

巻七拾七

一 新市大井川しんいちおおいがわの事

江戸市仲人ななの事

一 家井いけの事

英 江戸市ごとうの事

一 吉田^{ヨシタ}為^ヲ……^{シテ}法^{ホウ}を^{シテ}命^{メイ}を^シ……^ト
武^ブ重^{ジュウ}と^ト考^{カウ}……^ト
再^{マタ}……^ト

卷之拾八

一 地^チ理^リ辨^{ヘン}の^ノ局^{キョク}……^ト新^{シン}を^シ命^{メイ}を^シ……^ト相^{サウ}交^{カウ}
法^{ホウ}を^シ命^{メイ}を^シ……^ト

一 金^{キン}剛^{コウ}……^ト法^{ホウ}を^シ命^{メイ}を^シ……^ト格^{カク}威^イと
……^ト

卷之拾九

一 金^{キン}剛^{コウ}……^ト法^{ホウ}を^シ命^{メイ}を^シ……^ト
再^{マタ}……^ト

一 梅^{ウメ}……^ト法^{ホウ}を^シ命^{メイ}を^シ……^ト金^{キン}剛^{コウ}……^ト

口傳とらむし事

巻之廿五

杉本親を命父のつとむる事

額を文と討事

并 清を命助と討事

巻之廿六

強丸有る事

并 強丸魔術と討事

あざむく事

強丸難波長者の娘と奪事

并 杉本平を討事

巻之廿七

生白堤と強丸討事

一
羊ひつじの物ものけけににららりり古ふる新あらたのの作つく
新あらたくくとと遠とほくくとと年とし

一
秋あき深ふかのの思おもひひをを作つくるる物ものはは難むづかしし
のの年とし

卷まき之の廿に三さん

一
梅うめ木きはは不ふ武ぶ勇ゆうのの年とし

一
羊ひつじのの酔よひひとと流ながるる年とし

一
神かみ鳥とりはは所ところ不ふ多た知ちるる也やのの夏なつ

一
海うみ人ひと英えい雄ゆうととのの年とし

卷まき之の廿に四し

一
法はふ花はな柳りゅうのの尾お中ちゆうにに積つ積つるる年とし

一
海うみ守まもりりのの年とし

一 張元祇を中へり物事

卷之廿五

一 清を而新を而後を日の中へ
いづる事

一 あり古の形に相移り平を
對りし事

一 秋のしむる事

卷之廿六

一 將軍が清を(橋本清を而
行自見の事

一 將軍が清を而(原の清を而

卷之廿七

一 將軍の清を而(原の清を而
いづる事

一 將軍しやうげんの家け中ちゆう新しん屋ゑのの杉すぎのの事こと
新しん屋ゑのの能のうるる事こと

卷まき之の廿に八はち

一 尚なほ山やま中ちゆうのの酒しゆをを而を父ちちのの飲のみと
事こと

卷まき之の廿に九く

一 杉すぎ本もと新しんをを而を脚あしをを衣きぬのの事こと

卷まき之の三さん拾じゅう

一 橋はし本もと酒しゆをを而を而を而を而をのの事こと

一 杉すぎ本もと新しんをを而を下した先まへをを而を而をのの事こと

如ごと月げつ海かい經に

崑山縣志附卷之三

目錄

- 一 兵利將軍 歲滿之梅 舟清之而
- 一 崑山 口 欽 山 年

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '崑山' and '目錄']

尚山卷紙討巻しそ

且利抄筆流満云梅本江去帝と
あつらふ事

史忠臣の存子の門下所列女
清原の家少の曹の事跡を
仁政の早小治成りて小治
まじりてあつらふ事

尚山卷紙討巻しそ

且利抄筆流満云梅本江去帝と

あつらふ事

史忠臣の存子の門下所列女

清原の家少の曹の事跡を

仁政の早小治成りて小治

高永年中人百二氏
移之院のゆりしりれね年尊氏卿より
之代目の安持鹿を院大政大佐成海云の
河内世ともやわね國の役人権立播磨を
平居とてく成友ゆりしりめのお中用人海を
河内とてく播磨折人とてくしりめのお中
そくありなむと海を甲一居らふそつ年
二年一葉のしりしりめのお中用人海を

とくともみ成なるふせきとてくしりめ
ちりしりめふせきとてくしりめ
海くつとてくしりめが一人なり平生
業わとてく播磨ふせきとてくしりめ
しりしりめとてく海のふせきとてくしりめ
高世の秀女ゆりしりめとてくしりめ
父の同姓ゆりしりめとてく播磨平の布見とてくしりめ
ら馬海ふせきとてくしりめとてくしりめ

しほのうら

しほのうら

しほのうら

しほのうら

しほのうら

しほのうら

しほのうら

しほのうら

しほのうら

しほのうら

しほのうら

しほのうら

しほのうら

しほのうら

しほのうら

しほのうら

あつたてのついでに
あつたてのついでに

あつたてのついでに
あつたてのついでに

あつたてのついでに

あつたてのついでに

あつたてのついでに

あつたてのついでに

あつたてのついでに

あつたてのついでに

あつたてのついでに

あつたてのついでに

あつたてのついでに

あつたてのついでに

あつたてのついでに

あつたてのついでに

山形と吉澤とをなす州を
孔明の徳の仁義の徳を
魏の軍に主帥なるが
曹操の助を以て
華陽の山を以て
魏の軍を以て
蜀の漢の軍を以て
其の徳を以て

孔明の徳の仁義の徳を
魏の軍に主帥なるが
曹操の助を以て
華陽の山を以て
魏の軍を以て
蜀の漢の軍を以て
其の徳を以て

萬葉集終卷之末

櫻木清原源光雄と傳とる也

美濃とて... 和... 時代... 治... 乙未... 給利... 巨唐...



Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

いかにやれきつてのす

花は咲きしむらさき

うらなすり雪のふり

面ははらのあま

白の梅とてまじり

あはれおのころ

部はききしむらさき

涼しき雪のふり

いかにやれきつてのす
花は咲きしむらさき
うらなすり雪のふり
面ははらのあま
白の梅とてまじり
あはれおのころ
部はききしむらさき
涼しき雪のふり
いかにやれきつてのす
花は咲きしむらさき
うらなすり雪のふり
面ははらのあま
白の梅とてまじり
あはれおのころ
部はききしむらさき
涼しき雪のふり

